

## 「栄二譜」続考

－八世芳村伊十郎氏所蔵自筆譜をめぐって－

星野厚子

### はじめに



【写真1】杵屋栄二  
（『人間国宝』より）

杵屋栄二（明治27年〔1894〕～昭和54年〔1979〕）は、大正から昭和に活躍した長唄三味線演奏家である。歌舞伎の<sup>じかた</sup>地方として舞台に多数出演したほか、長年にわたり長唄の稀曲を探求し、師匠である三世杵屋栄蔵をはじめ、流派をこえて多くの演奏家から習得した曲の数々を、独自の記号を駆使して記譜したことで知られている。それらの業績が評価され、昭和39年に重要無形文化財（各個認定）保持者（人間国宝）に認定された。

筆者は、『無形文化遺産研究報告』第7号（2013年3月）所載の『「栄二譜」試論』で、栄二が著した譜本（通称「栄二譜」）のうち、刊行された譜本の網羅的な調査と目録化を試みた。栄二による譜本の刊行は、昭和初期からおこなわれ、これまでに7種の譜本<sup>1)</sup>の存在と、曲目数210曲を確認した。

昨年、刊行譜に関して長唄芳村流家元の八世芳村伊十郎氏に所蔵本の調査をさせていただいたが、その際同時に、刊行譜の原資料ともいえる栄二の自筆譜も閲覧の機会に恵まれた。

栄二の自筆譜は、現在3箇所に分蔵されている。没後、ご遺族から、演奏・研究の両面で親交のあった長唄唄方の稀音家義丸氏に一括寄託された。稀音家氏によると、資料の形状や性質からそれらを3種類に大別し、そのひとつを栄二の師匠である三世栄蔵の孫の八世伊十郎氏にお預けしたとのことである。

本稿では、昨年より順次拝見した、八世芳村伊十郎氏所蔵の栄二自筆譜の内容を報告する。本稿の構成は、自筆譜の概要、譜の形式等を述べ、各譜の詳細は一覧として末尾にまとめた。今回は自筆譜の研究の一過程として資料の概要を明らかにし、今後、その他の自筆譜を段階的に精査した上で、あらためて考察を行う予定である。

本文中、刊行された「栄二譜」を刊行「栄二譜」、栄二の自筆譜を自筆「栄二譜」とし、とくに本稿の中心となる八世芳村伊十郎氏所蔵の栄二自筆譜を「芳村家所蔵自筆譜」と呼ぶこととする。また、本文中の物故者の敬称は、引用以外全て略す。

## 1. 自筆「栄二譜」について

自筆「栄二譜」は、稀音家義丸氏によると、昭和初期から栄二の晩年の昭和53年頃までにまとめられた譜本群で、形状はノートおよび付帳<sup>2)</sup>であったという。譜本は、清書と思われるもの、下書きと思われるものに大別され、長唄の譜のほか、役者の要望などを書き込んだ公演時の譜も含まれている。また印象として、流派による手（三味線の旋律）や解釈の違いなどを細かく書き留めており、同一曲の採譜も多いとのことである<sup>3)</sup>。現在「芳村家所蔵自筆譜」となっている譜本群は、清書と判断できるものであるという。

このような情報から、自筆「栄二譜」は、栄二が生涯にたずさわった三味線音楽を知る上での一次史料といえる。刊行「栄二譜」に掲載の曲も少なからず含まれているため、その原資料とも位置づけられよう。

## 2. 八世芳村伊十郎氏所蔵杵屋栄二自筆譜（「芳村家所蔵自筆譜」）

### （1）譜本の概要

A 5判ノート（21.4cm×15.8cm）、58冊に記されている。すべてのノートは、さまざまな包装紙でカバーされている。表紙中央上部には栄二の特徴的な筆致で採譜曲目名を書いた別紙を、表紙左下には番号を書いた別紙をそれぞれ貼付している（写真2、3）。譜本番号は「□」のように数字を□で囲んで、1～61番までを確認したが、そのうちの1冊には「A」と付され、また、譜本番号44、58、59、60は欠番であった。

ノート1冊の所収曲目数は、曲の長さによってまちまちであるが、おおむね5～6曲である。中には、白紙のページを残して1曲のみ所収するものもある。また、ほとんどの譜本では、表紙のほか、ノート1頁目に曲名を記し、その譜本の目次として記しているが、何も記載がなく、採譜のみされている曲もある。

筆記具はおもに万年筆を使い、ときおり筆も用いている。行を区切るためにほどこしたであろう罫線が書かれている譜もある。また、採譜後の訂正や注意事項は、多くの場合、余白に記している。

譜本の中には、新聞の切り抜きが挟まれているこ



【写真2】芳村家所蔵自筆譜（部分）



【写真3】芳村家所蔵自筆譜（全体）

ともあり、採譜年月あるいはその曲にかかわった年月を知る上での情報源となった。その内容は、栄二の余暇の楽しみだったという鉄道に関する記事が多かった。

## (2) 譜の形式と採譜の数

縦書きの相対音高譜である。ノート1頁に、4～6行を基本とする。右に三味線譜、左に歌詞を書き、あわせて1行を構成している。合方など、三味線の旋律のみの採譜では行間を詰めて記している。

採譜曲目数はのべ192曲。このうち3回重複して書かれていた曲は3曲、2回重複して書かれていた曲は8曲。重複分を省いた曲目数は178曲である。この中では、途中までの採譜、「大薩摩四十八手<sup>4)</sup>」など通常長唄の曲としては分類しないもの、複数曲を組み合わせて1曲としたもの（例「きやり抜粋五曲」）なども、1曲分として数えている。

## (3) 記譜の原則

それぞれの糸の音名の表記を、一の糸は変体仮名、二の糸は平仮名、三の糸は片仮名で書き分けていること、音価は音名の左に傍線を付して決定していることが刊行「栄二譜」と共通の原則である<sup>5)</sup>。いっぽう、刊行「栄二譜」と異なるのは、小節線がほとんどの曲目で書かれておらず、全体的に簡略化されていることである。ただし、区切りを示す二重線は頻繁に使用している。この譜から音を再現することは可能であるが、ノリ（曲の速さ）までを読み取ることは困難な場合が多い。

休拍は、1拍休む場合は「○」あるいは斜線（「\」）のような記号、2拍休む場合は縦書きの鍵括弧開始記号（「┌」）のような記号、3拍休む場合は、アルファベットの「Z」のような記号を使っている。速記に適し、かつ視覚的にも合理的な記号である<sup>6)</sup>。

訂正には、その部分を斜線で消して、その脇に別の色で書き改める方法、その部分に紙を貼って全体を訂正する方法などが取られている。

本文末尾の【譜例】に、刊行「栄二譜」と「芳村家所蔵自筆譜」の共通曲目の《めりやす 寿》で、記譜法を比較する。参考として、当該部分を五線譜で表したのも掲載する。音名は以下の通り対応する。なお、以下の表での「栄二譜」の音名は、例示のために平仮名で表記したものであり、糸の種別を表すものではない。

|      |   |   |    |   |    |   |    |     |   |    |   |    |   |
|------|---|---|----|---|----|---|----|-----|---|----|---|----|---|
| 栄二譜  | な | ひ | と  | ふ | た  | み | よ  | や   | い | つ  | む | ね  | な |
| 相対音高 | シ | ド | ＃ド | レ | ＃レ | ミ | ファ | ＃ファ | ソ | ＃ソ | ラ | ♭シ | シ |

## (4) 採譜の年代

「芳村家所蔵自筆譜」の採譜年代は、譜本の余白や、個別の曲の最後に記載された日付をたどることと推測した（【表1】）。以下に確認した情報を示す。

凡例：「4-0」などは、譜本番号4の個別曲以外の部分に書かれていることを示す。また、「4-1」などは、譜本番号と曲順を表す。この場合、譜本番号4の第1曲目を示している。曲名は、譜本の始まる直前に記された曲名を基本としたが、表作成のため、表記を整理した。[ ]は筆者補記。【表2】、【表3】も同じ。

【表1】

|                 |                 |  |                 |
|-----------------|-----------------|--|-----------------|
| ・ 4 - 0         | (目次左下)          |  | 「36-12-16」      |
| ・ 4 - 1         | 《親鸞 (六) 手長猿》    |  | 「S36/11/10 成」   |
| ・ 5 - 0         | (目次左下)          |  | 「36-12-27」      |
| ・ 6 - 0         | (目次左下)          |  | 「S37-1-10」      |
| ・ 9 - 0         | (最終頁)           |  | 「S37-5-13 成」    |
| ・ 11 - 0        | (目次左下)          |  | 「37-6-2」        |
| ・ 13 - 5        | (曲名記載なし)        |  | 「43. 6. 20」     |
| ・ 16 - 1        | 《復新三組盃 傾城 (復元)  |  | 「S37. 7」        |
| ・ 26 - 1        | 《南総里見八犬伝結城戦争の段》 |  | 「S43. 11. 10 成」 |
| ・ 34 - 1        | 《歌舞伎座連獅子》       |  | 「S43. 9. 22 成」  |
| ・ 35 - 2        | 《鶴ヶ岡悲曲》         | 「本曲・後奏 : 32. 10. 16 成、前奏 : 32. 10. 17 成」 |                 |
| ・ 38 - 3        | 《水仙丹前》          | 「45. 11. 14 綾子女により訂正 (45. 11. 13)」       |                 |
| ・ 41 - 3        | 《春の調》           | 「46. 7. 25 故勝太郎師の手に訂正」                   |                 |
| ・ 49 - 4        | 《お祭五景》          |  | 「S30. 6. 24/26」 |
| ・ 51 - 1        | 《江口の君 石橋》       |  | 「S44-10-7 成」    |
| ・ 52 - 1、52 - 2 | 《初音の頼み》《鶴ヶ岡悲曲》  |  | 「32-10-16 成」    |
| ・ 52 - 3        | 《切禿土蜘蛛》         |  | 「S32. 10. 19」   |
| ・ 61 - 1        | 《矢の根》           | [昭和 42 年 10 月 13 日の考察]                   |                 |
| ・ A - 2         | [滝流し上調子]        |  | 「S50-3-6」       |

採譜年代や、それに準ずる日付が記載されているものは多くない。譜本番号を基準に見ると、日付が前後する曲もあるため、番号の若い譜本に記載された曲の採譜年代がより古いとも言えない。そのため、断定することは難しいが、これらの日付を勘案して推測すると、「芳村家所蔵自筆譜」は昭和30年代から昭和40年代に書かれた可能性が考えられる。そうであるならば、栄二の60歳代から70歳代にまとめられた譜となり、刊行「栄二譜」のうち、『長唄三絃譜』、『栄二・三絃譜』の刊行時期と重なる。

#### (5) 長唄関係者が語る、栄二の自筆譜にまつわる思い出

昨年度の拙稿においても、栄二の楽譜刊行への熱意が窺える様々な言説を紹介した。今回新たに、浅川玉兎(1903～2003)の言説を紹介する。

浅川玉兎は、現在長唄の曲目解説書で最も身近に手に取られる『長唄名曲要説』などを著した、長唄研究家である。浅川は、淡路島に住んでいたこともあり、書簡を通して長唄の作品について栄二と

親交があったようだ。昭和24年の初信から、栄二の最晩年の昭和54年1月までの間の手紙は、じつに724通にも及んだとある<sup>7)</sup>。

昭和26年12月、浅川は栄二が出演した京都の顔見世興行を見に行き、終演後に栄二を訪ね、遅くまで話し込んだ際、以下のようなことがあったという。

[中略] 小さな風呂敷包を置き「これは私の全財産ですよ」と云いながら包をあけて見せられたが、B 6判ぐらいの分厚い横判の帳面に、拡大鏡を用いねばわからぬぐらいの細字で、ギッシリ実に克明に記譜されていた。

これはその時まで師の習得された曲の全部を備忘用に記譜されたものだそうで、常に肌身離さず所持されていたものゝ由。[後略]

昭和26年は栄二57歳で、第2章第4項で推測した採譜の年代に照らし合わせると、「芳村家所蔵自筆譜」より5年くらい前にしたためられた譜本ということになる。また、「B 6判ぐらいの分厚い横判の帳面」とあるが、B 6判は18.2cm×12.8cmなので、「芳村家所蔵自筆譜」よりも小さく厚みのあるノートと考えられる。栄二は歌舞伎の地方公演など、移動の多い職業で、持ち歩くことのできる形状が重要であったと思われる。常に携帯し、加筆訂正をおこなっていたであろう姿は想像に難くない。実際に「芳村家所蔵自筆譜」でも、最初の採譜を終えたあと、演奏のたびに、そのときの演出や共演者、新しい情報を細かく記録し、新聞記事の切り抜きなども丁寧に保存している形跡が確認された。

### 3. 栄二への伝承、栄二からの伝承

刊行「栄二譜」がそうであったように、「芳村家所蔵自筆譜」でも、伝承経路（誰からその曲を習ったか）を明記した譜が確認できた。【表2】にまとめる。なお、省略された芸姓等は、前後関係や『現代邦楽名鑑』長唄編を参考に [ ] で補った。

杵屋喜久寿は昭和5～6年頃に横浜に住んでいた女性演奏家、杵屋三叟（1847～1927）と杵屋三太郎（三世。1903～1983。）は名古屋で活躍していた演奏家、杵屋佐枝（1910生）は杵屋佐吉を家元とする「佐門会」に所属した演奏家、杵屋いそは杵屋勝三郎派家元（六世勝三郎。1888～1964。）、今藤綾子（1906～2003）は、ここにも記載のある今藤家家元の三世今藤長十郎（1915～1984）と姉弟である。また、藤間吟（生没年不明）は、栄二の曾祖父である清元栄吉の実弟藤間勘左衛門の養女で、東京から大阪へ移住した人物、稀音家浄観（二世。1874～1956。）は長唄研精会を結成した稀音家派の家元、杵屋富造（1902～1977）は大阪を拠点とした上方歌舞伎囃子方であった。以上が長唄関係者である。これまでも栄二の逸話として言われていたが、栄二が教えを受けた演奏家の活動拠点は東京都内だけではないことがこれを見てもわかる。

また、中村芝賀、若柳吉与志は日本舞踊家、松本幸四郎は歌舞伎俳優である。中田辰三郎は、雑誌『演芸画報』の社長をつとめた人物、「竹本あり女」については現時点では不明である。

【表2】

|          |           |                     |
|----------|-----------|---------------------|
| ・ 1 - 4  | 《菊づくし》    | [中村] 芝賀             |
| ・ 1 - 7  | 《四季の蝶》    | 中田辰三郎氏夫人            |
| ・ 7 - 6  | 《傾城むげんの鐘》 | 杵屋喜久寿師              |
| ・ 13 - 3 | 《いなか神子》   | [杵屋] 喜久寿師           |
| ・ 14 - 3 | 《女達》      | 若柳吉与志氏              |
| ・ 15 - 1 | 《雛助狂乱》    | 松本幸四郎氏              |
| ・ 15 - 3 | 《追羽根》     | [杵屋] 三太郎氏           |
| ・ 18 - 1 | 《うしろ面》    | [杵屋] 三叟氏 (訂補依頼)     |
| ・ 22 - 2 | 《髪梳いもせの鏡》 | 杵屋三太郎氏、竹本あり女        |
| ・ 22 - 4 | 《小袖模様》    | 杵屋三叟氏息女             |
| ・ 29 - 1 | 《瘤とり》     | [杵屋] 佐枝女 (訂補依頼)     |
| ・ 29 - 4 | 《花の蘭平》    | 中村芝賀女               |
| ・ 29 - 5 | 《四つ竹節》    | 杵勝家元 杵屋いそ女          |
| ・ 38 - 3 | 《水仙丹前》    | [今藤] 綾子女 (訂正)       |
| ・ 41 - 2 | 《天岩戸開奏楽》  | 藤間吟女、[稀音家] 浄観 (訂補)  |
| ・ 51 - 1 | 《江口の君 石橋》 | [杵屋] 富造氏、今藤 [長十郎] 氏 |

長唄関係者だけでなく、歌舞伎俳優の松本幸四郎から《雛助狂乱》(本名題《狂乱雪吹の雛形》)を教わったという記述は興味深い。このことに関する言説として、雑誌『季刊邦楽』の対談<sup>8)</sup>の、栄二が共演した歌舞伎俳優の思い出を語っている部分を引用する。

前の幸四郎さんですね。あの方はご自分が三味線を弾きましたし、師匠[三世杵屋栄蔵]があの方を教えただけで、[中略]それから後は、踊りの会ではよく弾きましたし、ものによって、あの方が『雛助の狂乱』というのをやると言うんです。「だんなさん、知りません」と言うと、「おれが教えてやるから」と言って、私は幸四郎さんに『雛助の狂乱』を教わったもんです。( [ ] は筆者補記。)

対談時点での幸四郎の名跡は、八世である。ここで「前の幸四郎さん」とあるので、栄二が《雛助狂乱》を教わったのは七世幸四郎(1870~1949)となる。

【表2】に示した曲は、栄二が伝承者を訪ねた結果習得した曲であるから、一般にはあまり演奏されていなかった稀曲であったといえる。

また、「芳村家所蔵自筆譜」で、栄二は日本放送協会(NHK)がかかわる長唄の録音の記録も書き留めている。そのうち、初世日吉小三八(長唄唄方。長唄日吉流初世家元。1907~1995。)、稀音家

六多郎（長唄三味線方。1919～1989。）と4曲共演していることが確認できた（【表3】）。【表3】で掲げた曲も、演奏頻度の高い曲とはいえ、【表2】同様、稀曲と見なせる。栄二の「小三八さんとの関係で、六多郎さんにだいぶお教えしました」という言説<sup>9)</sup>があることから、少なくとも栄二、そして初世日吉小三八、稀音家六多郎の3名とかかわりのあった流派や個人は、栄二が習得した稀曲の数々を伝承している可能性があるといえる。昨今の演奏会の曲目を見ると、「稀音家義丸の会」「稀音家義丸 稀曲の試み」（稀音家義丸氏ほか）、「長唄演奏会 道」（長唄日吉流の演奏会。日吉流二世家元日吉小三八氏ほか。）など、一部の演奏家（団体）の間では、《四季の蝶》、《いなか神子》、《四つ竹節》などが演奏されている。これらの曲が栄二からの伝承と断定するには検証の余地が残されているかもしれないが、栄二の関係者が、稀曲とされている曲目を演奏している例として注目したい。

【表3】

|          |           |                               |
|----------|-----------|-------------------------------|
| ・ 6 - 1  | 《釣狐春乱菊》   | 昭和 41 年 2 月 22 日文化財録音（NHK）    |
| ・ 22 - 2 | 《髪梳いもせの鏡》 | 昭和 41 年 3 月 28 日文化財依頼録音（NHK）  |
| ・ 22 - 3 | 《籬の垣衣草》   | 昭和 41 年 3 月 28 日文化財依頼録音（NHK）  |
| ・ 22 - 4 | 《小袖模様》    | 昭和 41 年 3 月 25 日 NHK ライブラリー録音 |

#### 4. まとめ

以上、昨年度報告した刊行「栄二譜」の基本事項を踏まえ、本稿では「芳村家所蔵自筆譜」を概観した。

「芳村家所蔵自筆譜」58冊の譜本群は、栄二の几帳面な人柄そのものであり、さまざまな模様の包装紙を使って思いのままに作成された譜本は、栄二の美的感覚を垣間見せるものであった。58冊全てを見終わった時の充実感は、言葉には言い表せないものがあつた。

自筆「栄二譜」のうち、「芳村家所蔵自筆譜」に記載された情報だけでも、10名以上から稀曲の伝承を受けていることが判明した。教えを受けた人物が記されていることで、曲の正確な伝承に常に細心の注意をはらっていた栄二の姿勢を再認識することができた。現在の長唄の伝承において、栄二が多大な功績を残したことは明らかである。栄二以降の伝承として、譜に書き留められた記録から演奏時の共演者の情報も得られ、その共演者の次世代以降の関係者も、栄二の探求した曲の数々を現在も伝承していることがわかって嬉しかった。

本論では言及しなかったが、「芳村家所蔵自筆譜」のうち、80曲は刊行「栄二譜」と共通する曲目であった。今後、他の所蔵先の自筆「栄二譜」の調査を終えたのち、それぞれを校合し、自筆譜から刊行譜への過程を追いたいと考えている。

「芳村家所蔵自筆譜」の各曲の詳細は、本稿の最後に【八世芳村伊十郎氏所蔵杵屋栄二自筆譜一覧】として掲載する。

## 謝 辞

本稿を執筆するにあたり、八世芳村伊十郎氏、稀音家義丸氏の多大なご助力を得た。また、栄二氏のご遺族には、写真掲載のご承諾および研究へのご理解をいただいた。深く御礼申しあげる。

## 《参考文献》

町田佳聲・植田隆之助編『現代邦楽名鑑』長唄編、東京：邦楽と舞踊出版部、1966年。

鈴木敏夫編『人間国宝』、東京：読売新聞社、1966年。

国立劇場調査養成部調査資料課編『歌舞伎俳優名跡便覧』、東京：独立行政法人日本芸術文化振興会、2006年（第三次修訂版）。

## 《注》

- 1) 刊行年代順に、『三絃譜附長唄稽古本』、『栄二三絃譜』、『長唄三絃譜』、『杵栄稽古本』、『杵栄譜本』、『栄二譜本』、『栄二・三絃譜』の7種。『三絃譜附長唄稽古本』、『杵栄稽古本』、『杵栄譜本』、『栄二譜本』は譜本1冊に1曲を所収する一冊本、『栄二三絃譜』、『長唄三絃譜』、『栄二・三絃譜』は、1冊に複数曲を所収する合本である。
- 2) 一般的に半紙を二つ折りにした形状。
- 3) 平成26年1月21日談。
- 4) 三世杵屋勘五郎（十一世杵屋六左衛門）が大薩摩節の旋律型を48通りに整理しまとめたもの。
- 5) 拙稿「『栄二譜』試論」（『無形文化遺産研究報告』第7号、2013年3月）本文第2章第4節参照。
- 6) これらの表記は、栄二独自の使用記号ではなく、芝居関係者の間では速記のために広く用いられている。
- 7) 『杵屋俊二同門会々報』No.47（発行年記載無し。内容から、昭和54年4月頃の発行か。）9頁。
- 8) 『季刊邦楽』第6号、昭和51年（1976）1月号、96頁。
- 9) 前掲注8、99頁。



## A Study of "Eiji-fu" (2): Scores of Japanese Music Transcribed by KINEYA Eiji in the Collection of YOSHIMURA Ijuro VIII

HOSHINO Atsuko

KINEYA Eiji (1894-1979) is a *nagauta shamisen* performer who was active from the 1910s to the 1970s. He was designated a Living National Treasure in 1964 for his numerous performances on the *kabuki* stage as well as for his study and acquisition of repertoires in danger of no longer being performed.

In fiscal year 2012, "Eiji-fu" (scores transcribed by Eiji) was organized and it was found that 210 of them had been published. An inventory of these scores was compiled and presented in *Research and Reports on Intangible Cultural Heritage No. 7*.

The present study is a report on *nagauta* scores that Eiji himself transcribed. These scores are considered to have been important source materials in compiling the published scores. Currently, scores transcribed by Eiji are collected at three places. This is a report of investigation on those in the collection of YOSHIMURA Ijuro VIII, grandson of KINEYA Eizo III who was Eiji's teacher.

The scores were transcribed on 58, A5-size notebooks. Eiji used his own system of notations to express the melody played by *shamisen*. Since the notations are simpler than those of the published scores and since there are some corrections, it is assumed that they were compiled as Eiji's draft. At this point, it has been found that there are a total of 192 pieces and that some seem to have been transcribed more than twice. An inventory is attached at the end of this report.

It is hoped that this study will provide a hint to an understanding of Eiji who took great care in transmitting the songs accurately.



めりやす 寿

月 や あら  
ぬ 春 や む か し  
の 春 な ら ぬ  
咲 け る さ く ら も 雲 と  
の み の 見 捨 て て  
帰 る か り が  
ね も お ぼ ろ  
か す め る や ま の

## 【八世芳村伊十郎氏所蔵 杵屋栄二自筆譜 一覧】凡例

- 本一覧は、杵屋栄二が記した自筆譜のうち、八世芳村伊十郎氏が所蔵する譜本に採譜された曲目を、譜本番号順かつ所収曲順に配列したものである。
- 本一覧は、見開き1頁の1列に、ひとつの情報を掲載している。
- 表記は、原則として通行の字体を用いた。
- 判読できない文字は、1字分は□、2字以上で文字数が不明の場合は〔 〕で示した。
- 「譜本番号」欄には、譜本番号と曲順を示した。例)「1-1」: 譜本番号1の第1曲目
- 「譜本表紙曲名」欄には、各譜本の表紙に記載された曲名を、原本に即して記した。
- 「譜本内題曲名」欄には、譜が始まる直前に記載された曲名を、原本に即して記した。
- 「作曲者/作曲年代(作詞者等)」欄には、おもに「譜本内題曲名」の下に記載された情報を記した。芸姓が省略されている場合などは適宜補い、漢数字はアラビア数字にあらためた。
- 「譜本表紙曲名」、「譜本内題曲名」、「作曲者/作曲年代(作詞者等)」の各欄に記載のない場合には「[記載無し]」とした。また、別紙の貼付等により、記載自体が不明の場合は「[不明]」とした。
- 表中の「4杵屋六三郎」など、人名の前に数字を付した表記は、その人物の代数を表す。したがって、「4杵屋六三郎」は、四世杵屋六三郎のことである。
- 「刊行「栄二譜」の有無」欄では、刊行「栄二譜」の所収曲目か否かを示した。丸数字は、拙稿『『栄二譜』試論』(『無形文化遺産研究報告』第7号)本文第2章第3節に準じた刊行「栄二譜」の名称で、詳細は以下のとおりである。
  - ①:『三絃譜附長唄稽古本』 ②:『栄二三絃譜』 ③:『長唄三絃譜』
  - ④:『杵栄稽古本』 ⑤:『杵栄譜本』 ⑥:『栄二譜本』 ⑦:『栄二・三絃譜』
- 丸数字につづく数字は、譜本の巻数と曲順を示す。
  - 例) ⑦-12-1:『栄二・三絃譜』第12巻第1曲目
  - ⑤-104:『杵栄譜本』第104編
- 「各曲末尾等の記載」欄には、おもに譜の末尾に記された栄二の覚書を記した。縦書きの原本を横書きの表に整理したため、数字表記が不統一であるが、原本に即して記した。断片的な情報で補記が必要と判断した場合にのみ、〔 〕に筆者が補記した。
- 「備考」欄には、筆者による補記事項を記した。情報の少ない曲には、曲を特定する手がかりとして、冒頭の歌詞を「出だし」として記したものもある。

## 【八世芳村伊十郎氏所蔵 杵屋栄二自筆譜 一覧】

| 番号 | 譜本番号 | 譜本表紙曲名   | 譜本内題曲名                      | 作曲者/作曲年代(作詞者等)    | 刊行「栄二譜」の有無          |
|----|------|----------|-----------------------------|-------------------|---------------------|
| 1  | 1-1  | 歌舞伎踊     | 歌舞伎踊                        | [記載無し]            | ⑦-12-1              |
| 2  | 1-2  | 関の小万     | 関の小万                        | [記載無し]            | ③-8-1               |
| 3  | 1-3  | やり奴      | 鎗奴                          | [記載無し]            | ③-8-9               |
| 4  | 1-4  | 菊づくし     | 菊づくし(袖模様四季色歌。秋都大おどり。花かさおどり) | [記載無し]            | ⑦-13-1              |
| 5  | 1-5  | 馬場先踊     | 馬場先踊「繫ぎ馬」                   | [記載無し]            | ⑦-10-1              |
| 6  | 1-6  | めりやす朝顔   | めりやす朝顔                      | 稀音家照海 添削/文久1      | ②-3-2 ⑦-3-2         |
| 7  | 1-7  | 四季の蝶     | 四季の蝶                        | 杵屋六翁              | ×                   |
| 8  | 1-8  | 関三奴      | 歌へす\名残大津画 奴                 | 4杵屋六三郎/文政9        | ③-5-6 ⑤-104 ⑦-5-6   |
| 9  | 1-9  | めりやす猫のつま | めりやす猫の妻                     | 杵屋弥十郎/明和1         | ②-2-2 ⑦-2-2         |
| 10 | 2-1  | 六翁 寿     | めりやす寿                       | 杵屋六翁/嘉永6          | ⑥-123 ⑦-14-1        |
| 11 | 2-2  | 惜しむ春     | 惜しむ春                        | 4杵屋佐吉             | ×                   |
| 12 | 2-3  | 松        | 松                           | 3杵屋栄蔵/昭和16(佐々木信綱) | (①-55) ②-1-10 ⑦-1-9 |
| 13 | 2-4  | ゆかりの月    | めりやす 由縁の月                   | 9杵屋六左衛門/文化6       | ①-1 ②-1-3 ⑦-1-3     |
| 14 | 2-5  | 豊の春      | 豊の春                         | 杵屋六之助(六翁トモイウ)/弘化2 | ①-1,6 ②-2-3 ⑦-2-3   |
| 15 | 3-1  | 漁師       | 「辻花七化粧」七変化 漁師               | 2杵屋勝五郎/天保3        | ②-2-5 ⑤-94 ⑦-2-5    |
| 16 | 3-2  | 鳶奴       | [記載無し]                      | 4杵屋六三郎/文化11       | ⑤-80                |
| 17 | 3-3  | 春の色      | 端唄 春の色                      | 4杵屋六三郎/弘化2        | ⑥-122               |
| 18 | 3-4  | 安宅丸      | 安宅丸                         | 2杵屋勝三郎            | ×                   |
| 19 | 3-5  | 花街道成寺    | 花街道成寺                       | 9杵屋六左衛門/文化7       | ×                   |
| 20 | 4-1  | 手長猿      | 親鸞(六) 手長猿 大盗篇より             | [記載無し]            | ⑦-11-10             |
| 21 | 4-2  | 千歳の松     | 千歳松                         | 4杵屋六三郎/作曲年不明      | ⑤-107               |

| 譜本番号 | 各曲末尾等の記載   | 備考   |
|------|--|--|
| 1-1  |  |  |
| 1-2  |  |  |
| 1-3  |  |  |
| 1-4  | 以上中村流(芝賀)の手。此歌詞と初めに「千代のはじめの一踊まっは松坂越えたえ。版本にあり。                          |  |
| 1-5  | 「志賀山流」に残る若衆歌舞伎時代の曲。全家表裏十六番の表八番「松はゆたか」。                                 |  |
| 1-6  |  | 譜のあとに長唄正本の写真を貼付。                                 |
| 1-7  | 昭和十一年四月二十七日、渥美清太郎氏の紹介にて中田辰三郎(池の端)氏宅へ参上、全氏夫人より教へうける。                    |  |
| 1-8  |  | 長唄正本では、「名残」は「余波」。                                |
| 1-9  | 「人来鳥春告曾我」下女お市 芳沢五郎市。正月江戸中村座。   |  |
| 2-1  |  | 出だし:月やあらぬ春やむかしの春ならぬ                              |
| 2-2  |  |  |
| 2-3  | 藤間勘齋事七世幸四郎在世中、藤間流舞踊試験用に作曲。佐々木信綱作詞。                                     |  |
| 2-4  |  |  |
| 2-5  |  |  |
| 3-1  |  |  |
| 3-2  |  |  |
| 3-3  | 初版本連名 岡安喜三郎 杵屋六三郎 杵屋長次郎 杵屋六四郎  |  |
| 3-4  |  |  |
| 3-5  | 「道中娘菅笠」(=恋女房染分手綱を翻案した狂言)奴の逸平が主人の代りに「道成寺」を舞ふ地へ使用したもの。三世中村歌右衛門演。七月江戸中村座。 |  |
| 4-1  | S36/11/10成   | 目次左下に「36-12-16」                                  |
| 4-2  | 正本表紙連名 長唄 岡安喜代八 松永鉄五郎 三味線 杵屋六三郎 杵屋六七 板元 神田鍋町 いがや勘右衛門                   | 譜本内題曲名は「千歳の松」と記載したが、「の」を×印で消し、ルビで「チトセノマツ」と書いている。 |

| 番号 | 譜本番号 | 譜本表紙曲名 | 譜本内題曲名               | 作曲者/作曲年代(作詞者等)       | 刊行「栄二譜」の有無        |
|----|------|--------|----------------------|----------------------|-------------------|
| 22 | 4-3  | 五月雨    | 五月雨                  | 4杵屋佐吉                | ×                 |
| 23 | 4-4  | 四代目 座頭 | 歌へす\／名残大津絵 座頭        | 4杵屋六三郎/文政6           | ×                 |
| 24 | 4-5  | うす氷    | 薄氷                   | 2杵屋勝三郎/安政3           | ③-4-7 ⑦-4-7       |
| 25 | 5-1  | 新さぎ    | 江戸八景の内「荻窪の暮雪」<br>新鷺娘 | 10杵屋六左衛門/天保10        | ⑥-124             |
| 26 | 5-2  | 節小袖    | 節小袖                  | 2杵屋勝三郎/嘉永5           | ⑤-106             |
| 27 | 5-3  | 九代目 座頭 | 遅桜手爾葉七字 座頭           | 9杵屋六左衛門              | ⑦-12-5            |
| 28 | 5-4  | るりのつや  | 瑠璃の艶                 | [記載無し]               | ③-7-1             |
| 29 | 5-5  | ろぢのしも  | 路次の霜                 | 3杵屋正治郎               | ×                 |
| 30 | 6-1  | 釣狐     | 釣狐春乱菊                | 2杵屋六三郎/明和7           | ×                 |
| 31 | 6-2  | あわしま   | 関東小六後雛形              | 富士田吉治/明和7            | ×                 |
| 32 | 6-3  | 一人わん久  | 一人椀久                 | [記載無し]               | ⑤-90 ⑦-13-2       |
| 33 | 6-4  | 白酒売    | 春昔由縁英 五変化ノ一 白酒<br>売  | 1杵屋正次郎/天明5           | ③-4-9 ⑦-4-9       |
| 34 | 6-5  | 春風(門松) | 春風(門松)               | [記載無し]               | ⑥-123             |
| 35 | 7-1  | 根元草摺   | 根元草摺曳                | 3杵屋正治郎/明治16          | ×                 |
| 36 | 7-2  | 不動     | 唄浄瑠璃 不動              | 4杵屋六三郎/文政4           | ⑤-98              |
| 37 | 7-3  | のりより   | 道行花の吹雪(範頼道行)         | 1杵屋佐吉/安永10(天明1)      | ⑦-9-2             |
| 38 | 7-4  | 対面春駒   | 対面花春駒                | 1杵屋正次郎/寛政3           | ③-4-5 ⑤-108 ⑦-4-5 |
| 39 | 7-5  | 福の神    | 福の神                  | 11杵屋六左衛門/元治1         | ×                 |
| 40 | 7-6  | むげんの鐘  | 傾城むげんの鐘(むかし艸)        | 坂田兵四郎(推定)/享保16       | ⑦-11-1            |
| 41 | 8-1  | 胡蝶     | 胡蝶                   | 吉住小三郎 杵屋六四郎/明治<br>37 | ×                 |
| 42 | 8-2  | 可祝の柳   | 可祝の柳                 | 杵屋勝吉/明治38            | ×                 |
| 43 | 8-3  | 今様百夜車  | 今様百夜車                | 杵屋六左衛門               | ×                 |

| 譜本番号 | 各曲末尾等の記載   | 備考   |
|------|--|--|
| 4-3  |  |  |
| 4-4  | 文政九年九月江戸中村座 三世関三十郎演 作詞 勝井源八 「清元」と掛合 斎兵衛作曲  | 長唄正本では、「名残大津絵」は「余波大津画」。作曲年代の文政6年は誤記か。            |
| 4-5  |  |  |
| 5-1  |  | 目次左下に「36-12-27」                                  |
| 5-2  |  |  |
| 5-3  |  |  |
| 5-4  |  |  |
| 5-5  |  |  |
| 6-1  | 日吉小三八氏所蔵初版正本複写 (MINOXにて)<br>昭和41年2月22日文化財ろく音(NHK) (十四分20秒)。小三八。栄二。六多郎。源造。<br>伝左衛門。涼月。伝佐久。  | 譜の前に長唄正本表紙の写真貼付。<br>目次左下に「S37-1-10」 新聞記事:S46-5-1 |
| 6-2  |  |  |
| 6-3  |  |  |
| 6-4  |  |  |
| 6-5  |  |  |
| 7-1  |  |  |
| 7-2  |  |  |
| 7-3  | 色里透小町曾我(クルリガヨイコマチゾカ) 第一番目六立め。作者 河竹新七。蒲の冠者のりより 中村仲蔵、御所の五郎丸 尾上政蔵。道行花の吹雪(シユキハナフグキ) 中村座。浄瑠璃 大薩摩主膳太夫 三味線 杵屋佐吉。年代記。年表には色里通とあり。安永十年辛丑年二月(四月十三日年号改天明元年となる。年代記は安永、年表は天明とあり(小三八氏調) | 長唄正本では「吹雪」は「雪吹」                                  |
| 7-4  | 春世界艶麗曾我(ハルノセカイニキワイツカ) 第一ばんめ五立目。寛政三年江戸中村座。狂言作者増山金八。五郎(三世市川八百蔵)おどり(三世瀬川菊之丞)おてふ(四世岩井半四郎)。   |  |
| 7-5  |  |  |
| 7-6  | 昭和初期、横浜在住杵屋喜久寿(女)師より(現存せるメイヤス最古の曲)『傾城福引名護屋』唄 坂田兵四郎 三弦 杵屋十郎 琴三弦 杵屋文次郎 初世瀬川菊之丞演 正月江戸中村座。   |  |
| 8-1  |  |  |
| 8-2  |  | 作曲者は4杵屋勝太郎。                                      |
| 8-3  |  | 出だし:それ新花栄鮮に開けて                                   |



| 番号 | 譜本番号 | 譜本表紙曲名    | 譜本内題曲名                      | 作曲者/作曲年代(作詞者等) | 刊行「栄二譜」の有無        |
|----|------|-----------|-----------------------------|----------------|-------------------|
| 44 | 8-4  | 女かしま      | 法花四季台 春 かしま踊                | 9杵屋六左衛門/文化2    | ×                 |
| 45 | 8-5  | 五大力       | めりやす 五大力                    | 杵屋弥十郎/寛政7      | ②-3-1 ⑦-3-1       |
| 46 | 8-6  | 月の巻訂正(師)  | 月の巻 師匠校訂                    | [記載無し]         | ④-74(75) ⑤-75     |
| 47 | 9-1  | 太刀盗人      | 太刀盗人                        | 杵屋巳太郎/大正6      | ×                 |
| 48 | 9-2  | 五条橋狂乱     | 五条橋狂乱(章ひろげ)                 | 3杵屋栄蔵/大正14     | ×                 |
| 49 | 9-3  | つなで車      | 夜鶴綱手車                       | 富士田吉治 錦屋惣治/明和2 | ②-3-8 ⑤-115 ⑦-3-7 |
| 50 | 9-4  | 加賀の菊      | 加賀の菊                        | [記載無し]         | ⑦-9-1             |
| 51 | 10-1 | 若柳新曲 寿    | 若柳新曲 寿                      | [記載無し]         | ×                 |
| 52 | 10-2 | 与作        | 乗掛情夏木立(与作)                  | 富士田吉治 錦屋惣治/明和1 | ×                 |
| 53 | 10-3 | 相生獅子      | 相生獅子の乱曲(風流相生獅子)             | 杵屋喜三郎/享保19     | ×                 |
| 54 | 11-1 | 伊勢土産契情道成寺 | 「伊勢名所業土産」傾城道成寺の川崎音頭         | 10杵屋六左衛門/安政3   | ×                 |
| 55 | 11-2 | 門傾城       | 坂東三津五郎十二月所作 四季詠寄三大字 傾城(門傾城) | 1杵屋勝五郎/文化10    | ⑤-97 ⑦-11-2       |
| 56 | 11-3 | 人形傾城      | (人形傾城)                      | [記載無し]         | ×                 |
| 57 | 11-4 | 八月傾城      | 花兄弟十二月所作(八月)傾城              | 2杵屋勝五郎/天保11    | ③-7-9 ④-68        |
| 58 | 12-1 | 俄かしま      | 「四季詠寄三大字」俄鹿島踊               | 1杵屋勝五郎/文化10    | ⑤-114             |
| 59 | 12-2 | 半田いなり     | 四季詠寄三大字 半田稻荷                | 1杵屋勝五郎/文化10    | ⑤-112             |
| 60 | 12-3 | 八朔梅       | 八朔梅月の霜月                     | 杵屋弥十郎/寛政1      | ×                 |
| 61 | 12-4 | 身替座禅      | 身替座禅                        | 4杵屋巳太郎         | ×                 |
| 62 | 12-5 | 三勝道行      | 三傘暁小袖(上) 三勝半七 浮名の雨 三勝道行     | 宝暦6            | ×                 |
| 63 | 13-1 | 冬山姥金太郎    | 邯鄲園菊蝶 冬山姥 金太郎               | 9杵屋六左衛門/文化6    | ×                 |
| 64 | 13-2 | 団十郎狂乱     | 狂乱左当升                       | 2杵屋正次郎/文化10    | ⑥-151             |
| 65 | 13-3 | いなか神子     | 七字の花在姿絵 いなか神子               | 9杵屋六左衛門/文化3    | ②-1-7 ⑤-95 ⑦-1-7  |

| 譜本番号 | 各曲末尾等の記載  | 備考   |
|------|---|--|
| 8-4  |   |  |
| 8-5  |   |  |
| 8-6  |   | 3杵屋栄蔵の校訂を記したと思われる。<br>刊行「栄二譜」の④の番号は「75」の誤植と思われる。 |
| 9-1  |   |  |
| 9-2  | 大正十四年五月狂言中幕 歌舞伎座 (上)一つ家(下)狂乱 尾上梅幸演  |  |
| 9-3  |   |  |
| 9-4  |   | 譜本最終頁に「S37-5-13成」                                |
| 10-1 | S28.1.25 作曲成。2.3改曲成。昭和二十八年三月二十八日 吉佑改若柳寿慶名弘会に開曲。全三十三年三月二十八日柳荅会に再演(新橋演舞場)   | 出だし:盃に向えば千歳の                                     |
| 10-2 | 恋女房染分手綱 第八段目道行 明和元年七月江戸市村座 与作 九世市村羽左衛門 小万 坂東よし蔵。版本連名 長哥 富士田吉治 錦屋平治 富士田清五郎 三味線 錦屋惣治 西川奥蔵 浅田藤七 小つゝみ 宇野長七 大つゝみ 古川清蔵。 |  |
| 10-3 |   |  |
| 11-1 |   | 目次左下に「37-6-2」                                    |
| 11-2 |   |  |
| 11-3 |   | 出だし:君ならで誰にか見せん此花の                                |
| 11-4 |   | 長唄正本では「花兄弟」は「花姉」                                 |
| 12-1 |   |  |
| 12-2 |   | 絵馬も栄ある午まつりのあと、合の手の記載あり。「踊用先代今藤長十郎氏作曲」と書き添えられる。   |
| 12-3 | 寛政元年七月江戸中村座「平家評判記」の一節。熊野の許へ池田の宿から母の使に来た「かけずりのお百」(中山富三郎)と盗賊と見せた多田藏人行綱(大谷鬼治)が宝物を争う古風な踊。                             |  |
| 12-4 | 常磐津と共調子。渡米カブキ(昭和三十五年)以後勘三郎丈主演の折は「竹本」と掛合。此際は当方「上調子」にて。此場合の「手」の変わり様は次頁に記。   | 末尾に「追まわし合方」記載。<br>作曲者は5杵屋巳太郎                     |
| 12-5 |   |  |
| 13-1 |   | 譜本内題曲名「金太郎」は「冬山姥」の譜あと続けて記載。                      |
| 13-2 | 「戻橋背御撰」(モトリバシセナゴヒキ)十一月顔見世狂言一番目大詰。筋=相馬良門が頼信の館へ似せ上使に来て、正体が現はれさうになり、右手の指に瓶をはめたまゝ、左手だけで偽狂を粧ふ踊。七世団十郎演。四世南北作。           |  |
| 13-3 | 文化三年二月江戸中村座 五世岩井半四郎演 作詞 松島半二 喜久寿師より教へうけ後研精会風の一部訂補   |  |

| 番号 | 譜本番号 | 譜本表紙曲名      | 譜本内題曲名                    | 作曲者/作曲年代(作詞者等)      | 刊行「栄二譜」の有無       |
|----|------|-------------|---------------------------|---------------------|------------------|
| 66 | 13-4 | [記載無し]      | [記載無し]                    | [記載無し]              | ×                |
| 67 | 13-5 | [記載無し]      | [記載無し]                    | [記載無し]              | ×                |
| 68 | 14-1 | 八重霞         | 八重霞                       | 6杵屋弥十郎/明治19(不二廻舎高根) | ×                |
| 69 | 14-2 | 両国八景        | 両国八景                      | [記載無し]              | ×                |
| 70 | 14-3 | 女達          | 邯鄲園菊蝶 (夏) 女達              | 9杵屋六左衛門/文化6         | ×                |
| 71 | 14-4 | 犬神(一部)      | 犬神(普通不演奏の部分)              | [記載無し]              | ①-26 ⑦-14-3      |
| 72 | 15-1 | 雛助狂乱        | 狂乱吹雪の雛形(雛助狂乱)             | [記載無し]              | ×                |
| 73 | 15-2 | 玉菊          | 玉菊                        | 3杵屋栄蔵/昭和2(木村富子)     | ①-7 ②-3-10 ⑦-3-9 |
| 74 | 15-3 | 追羽根         | 追羽根                       | 杵屋六三郎               | ×                |
| 75 | 15-4 | 臥猫          | 秘曲 臥猫                     | 鳥羽屋東武線太夫            | ×                |
| 76 | 15-5 | 団十郎狂乱       | 狂乱左当升                     | 2杵屋正次郎              | ⑥-151            |
| 77 | 16-1 | 初雁傾城(再)     | 復新三組盃 傾城(復元)              | [記載無し]              | ⑦-14-10          |
| 78 | 16-2 | 廓丹前         | 廓花柳立髪(廓丹前)                | 2杵屋勝三郎/安政4          | ×                |
| 79 | 16-3 | えにし橋        | えにし橋                      | [記載無し]              | ③-6-3 ⑤-80 ⑦-6-3 |
| 80 | 16-4 | 手ほどき和歌三曲    | 春すぎて 天津風 我庵は              | [記載無し]              | ×                |
| 81 | 17-1 | 傾城道成寺(訂正済)  | 傾城道成寺                     | [記載無し]              | ×                |
| 82 | 17-2 | かさね道成寺(増補共) | 垂帽子不器用娘                   | 4杵屋六三郎              | ×                |
| 83 | 18-1 | うしろ面        | 柳雛諸鳥囀 うしろ面                | 杵屋忠次郎/宝暦10          | ⑦-13-8           |
| 84 | 18-2 | 一奏邯鄲        | 一奏今様邯鄲                    | 1杵屋勝五郎/文政4          | ×                |
| 85 | 18-3 | 此君の一節       | 此君の一節                     | 1杵屋六四郎              | ⑤-82             |
| 86 | 18-4 | 関寺          | 神楽歌雨乞小町(顔見世狂言)<br>姿の鏡関寺小町 | 2杵屋六三郎/明和2          | ⑥-204            |
| 87 | 19-1 | 初雁傾城 口曲     | (初雁) 傾城                   | [記載無し]              | ⑦-14-10          |

| 譜本番号 | 各曲末尾等の記載   | 備考                                 |
|------|--|------------------------------------|
| 13-4 |  | 歌詞:天の原 ふりさけ見れば 春日なる 三笠の山に いでしつきかも  |
| 13-5 | 43. 6.20   | 歌詞:いこしえの 奈良のみやこの八重ざくら 今日九の重に匂いぬるかな |
| 14-1 | 不二廻舎高根作詞   |                                    |
| 14-2 |  |                                    |
| 14-3 | 文化六年四月江戸中村座、瀬川仙女演。女侠客が大坂の男侠客を相手に江戸女のりしきを見せる踊。素唄としては消滅。踊り地として、藤間(勘十郎)、坂東、松島等の流儀に残る。本譜は若柳吉与志氏より教はりしもの。全氏は藤間勘十郎氏より教はりしものゝ由。           | 初版稽古本との歌詞の異同を記載。                   |
| 14-4 |  | 「われは化けたと」から「品つくろうて」までの部分。          |
| 15-1 | 松本幸四郎氏より教へうく。振も御存知なりし。   | 長唄正本では「吹雪」は「雪吹」                    |
| 15-2 | 木村富子作詞   |                                    |
| 15-3 | 昭二五、一〇、二四、三太郎氏より。  | 刊記の「三太郎氏」とは杵屋三太郎のこと。               |
| 15-4 | 昭和12・1・28 師匠訂正。  | 刊記の「師匠」とは3杵屋栄蔵のこと。                 |
| 15-5 | 文化十年十月江戸市村座顔見世狂言。「戻橋背御撰(モリハシセナゴトイ)」一番目大詰。七代市川團十郎演、四世鶴屋南北作詞。相馬良門が頼朝の館へ似せ上使に来て、正体が現れそうになり、右手の指に瓶子をはめたまゝ左手だけで偽狂(ニセキガイ)を粧う踊(渥美清太郎氏解説)。 |                                    |
| 16-1 | 新三津五郎 坂東策助丈、山帰り。傀儡師。と共にテレビ(NHK)に上演するに際し八方たづねたれど曲現存せず、相談の結果復元作曲す。37.7.23(ろく音)7.29放送。S37.7。  |                                    |
| 16-2 |  | 新聞記事:44-10-19                      |
| 16-3 |  |                                    |
| 16-4 |  |                                    |
| 17-1 |  | 今藤綾子による訂正を書き留めている。                 |
| 17-2 |  |                                    |
| 18-1 | (S38.3.22 三叟氏に依訂補) 二世瀬川菊之丞演。   | 刊記の「三叟氏」とは杵屋三叟のこと。                 |
| 18-2 |  | 出だし:浮世の恋に迷い来て                      |
| 18-3 |  |                                    |
| 18-4 |  |                                    |
| 19-1 |  |                                    |

| 番号  | 譜本番号 | 譜本表紙曲名      | 譜本内題曲名                                   | 作曲者/作曲年代(作詞者等)         | 刊行「栄二譜」の有無   |
|-----|------|-------------|--|------------------------|--------------|
| 88  | 19-2 | 三日月         | 三日月                                      | [記載無し]                 | ×            |
| 89  | 20-1 | 甲子待         | 甲子待                                      | 作曲者 作曲年 未詳             | ⑥-152        |
| 90  | 20-2 | [記載無し]      | めりやす 猫の妻                                 | 杵屋作十郎/明和1              | ②-2-2 ⑦-2-2  |
| 91  | 20-3 | [記載無し]      | 馬場先踊「繋ぎ馬」                                | 作曲者 作曲年未詳              | ⑦-10-1       |
| 92  | 20-4 | 八犬伝落人の段     | 南総里見八犬伝(白竜狭雲帛南)(白竜の段上の巻) 義実落人の段 又 悪太郎と称す | 3杵屋正治郎/明治10頃           | ×            |
| 93  | 20-5 | 六翁 寿        | めりやす ことぶき                                | 杵屋六翁/嘉永6               | ⑥-123 ⑦-14-1 |
| 94  | 20-6 | むげんの鐘       | 傾城むげんの鐘                                  | 坂田兵四郎(推定)/享保16         | ⑦-11-1       |
| 95  | 20-7 | 五大力         | めりやす 五大力                                 | 杵屋弥十郎/寛政7              | ②-3-1 ⑦-3-1  |
| 96  | 21-1 | 五月雨(六松)     | 五月雨                                      | 杵屋六松/年代不詳              | ×            |
| 97  | 21-2 | 胡蝶          | 胡蝶                                       | 吉住小三郎 杵屋六四郎/明治37(饗庭墓村) | ×            |
| 98  | 22-1 | 法楽舞         | 初咲法楽舞                                    | 錦屋総治/宝暦13              | ×            |
| 99  | 22-2 | 長五郎髪すき      | めりやす 髪梳いもせの鏡(長五郎髪すき)                     | 杵屋弥十郎/宝暦5              | ×            |
| 100 | 22-3 | まがきの垣衣艸     | 籬の垣衣草                                    | 杵屋忠次郎/宝暦12             | ×            |
| 101 | 22-4 | 大さつま 小袖模様   | 小袖模様                                     | [記載無し]                 | ×            |
| 102 | 22-5 | 大蔵邯鄲        | 今様邯鄲                                     | 3杵屋正治郎                 | ⑤-103        |
| 103 | 23-1 | 檀特山         | 三国妖狐物語 上之巻 天竺檀特山之段                       | 1杵屋六四郎                 | ×            |
| 104 | 24-1 | 股野相撲の段      | [記載無し]                                   | [記載無し]                 | ×            |
| 105 | 25-1 | 大さつま四十八手    | 大さつま四十八手                                 | [記載無し]                 | ×            |
| 106 | 26-1 | 八犬伝(結城戦争の上) | 南総里見八犬伝 結城戦争の段(上の巻)                      | 3杵屋正治郎                 | ×            |
| 107 | 27-1 | 八犬伝(白龍の上)   | 南総里見八犬伝(白竜狭雲帛南)白竜の段 上の巻                  | 3杵屋正治郎                 | ×            |
| 108 | 28-1 | 増補 ひげやぐら    | 改訂増補 髭槽                                  | 3杵屋栄蔵                  | ×            |
| 109 | 28-2 | うわなり        | 髑染分紅葉                                    | 富士田吉治 杵屋作十郎/明和6        | ×            |

| 譜本番号 | 各曲末尾等の記載   | 備考                             |
|------|--|--------------------------------|
| 19-2 |  | 歌詞無し                           |
| 20-1 | 江戸時代、森田座の「脇狂言」に使用せるもの。名古屋 三隻氏口より。  | 譜に小節線あり。刊記の口は「派」か。             |
| 20-2 | 「人来鳥春告曾我」下女お市 芳沢五郎市。正月江戸中村座。   | 譜に小節線あり。                       |
| 20-3 | 志賀山流に残る。若衆歌舞伎時代の曲。志賀山流＝志賀山家表裏十六番の表八番「松はゆたか」。「繋ぎ馬」とも称す。ワキガキ訂正は39.4.25中山万作氏NHK TVにておどる時先方の申出通りに直したるもの。以後此方を使用の事。                                       | 譜に小節線あり。                       |
| 20-4 |  | 譜に小節線あり。                       |
| 20-5 |  | 譜に小節線あり。                       |
| 20-6 | 『傾城福引名護屋』唄 坂田兵四郎 三絃 杵屋十郎 琴三絃 杵屋文次郎。初世瀬川菊之丞演。正月江戸中村座。   | 譜に小節線あり。                       |
| 20-7 | 『五大力恋緋』並木五瓶作。  | 譜に小節線あり。                       |
| 21-1 |  | 譜は途中まで。                        |
| 21-2 |  |                                |
| 22-1 | 富士田吉治 木村源次郎 錦屋平治 / 錦屋総治 西川億藏 浅田藤七 / 小 古川清藏 同西村小野八 大 田中伝左衛門 / 笛 木村〔 〕 同 多田源〔 〕 太 小西十兵〔 〕 白拍子みどりの前(中村かしく) 宝暦十三年春 市村座                                   | 刊記全体を白紙で覆う。糊付部分が判読不可能。         |
| 22-2 | 松島庄五郎 三弦 杵屋弥十郎 杵屋忠次郎 琴 青柳歌流 笛 木村弥七 手塚太郎 大谷廣治 傾城篠原 中村喜代三郎 宝暦五年正月 市村座<br>杵屋三太郎氏のと、竹本あり女のと手のちがいが有り 二三ヶ所をのぞき竹本女の手にて訂正。杵屋三太郎氏 竹本あり女より                     | 22-3の刊記から、この曲もNHKで録音を行ったようである。 |
| 22-3 | 宝暦十二壬午年正月 市村座 残雪霖曾我 第二ばん目 葱壳おきよ本名人丸姫 富士田吉次 木村源次郎 錦屋平次 岡田市十郎 杵屋忠次郎 錦屋惣次 西川億藏 水木藤七 / 坂東三小口女テープより。昭和41年3月28日文化財イライろく音(NHK)(長五郎かみすきと共に)吉住小三八、杵屋栄二、稀音家六多郎 |                                |
| 22-4 | 昭和41年3月25日NHKライブラリーろく音。吉住小三八、杵屋栄二、稀音家六多郎。此曲大正時代杵屋三隻女(故三隻師の息女)より教へうけたるものにて当時「鶴命会」に上演の為、師よりの依頼にておぼへえる。   |                                |
| 22-5 |  | 出だし:君も豊に民栄え                    |
| 23-1 |  |                                |
| 24-1 |  | 曲名は原本表記のまま                     |
| 25-1 |  |                                |
| 26-1 | S43.11.10成   |                                |
| 27-1 |  |                                |
| 28-1 | 昭和二十八年六月歌舞伎座(師作曲)/昭和三十七年十二月東よこ(栄二改訂)/昭和四十四年二月二十六日(栄二増補)  |                                |
| 28-2 |  |                                |

| 番号  | 譜本番号 | 譜本表紙曲名                  | 譜本内題曲名         | 作曲者/作曲年代(作詞者等) | 刊行「栄二譜」の有無       |
|-----|------|-------------------------|----------------|----------------|------------------|
| 110 | 28-3 | 浮船浅妻                    | 七重咲浪花土産 浮船浅妻   | 10杵屋六左衛門/弘化3   | ⑤-89 ⑦-14-5      |
| 111 | 29-1 | こぶとり                    | 瘤とり            | [記載無し]         | ×                |
| 112 | 29-2 | 古今の序                    | 浄瑠離古今の序        | [記載無し]         | ×                |
| 113 | 29-3 | めりやす浮橋                  | めりやす 浮橋        | 杵屋栄二/昭和41      | ×                |
| 114 | 29-4 | 花の蘭平                    | 花の蘭平           | [記載無し]         | ×                |
| 115 | 29-5 | 四つ竹節                    | 寄三津再十二支 戊 四つ竹節 | 1杵屋勝五郎/文化11    | ×                |
| 116 | 29-6 | めりやす寿                   | めりやす 寿         | [記載無し]         | ①-11 ②-2-1 ⑦-2-1 |
| 117 | 30-1 | 海蔵宝珠                    | 海蔵宝珠           | [記載無し]         | ⑤-85             |
| 118 | 30-2 | 調まつ風                    | 行平磯馴松 恋男調松風    | 4杵屋六三郎/文化9     | ④-64             |
| 119 | 31-1 | 蕨入娘                     | 蕨入娘            | 4杵屋六三郎/文政5     | ×                |
| 120 | 32-1 | 枕慈童                     | 枕慈童            | 5杵屋三郎助/万延2     | ⑤-102            |
| 121 | 32-2 | めりやす 高尾                 | めりやす 高尾        | [記載無し]         | (③-6-5 ⑦-6-5)    |
| 122 | 32-3 | 正治郎 砧                   | 正治郎 砧          | 3杵屋正治郎         | ×                |
| 123 | 33-1 | 春秋会雪月花「花」鞆当             | 雪月花容姿三猿の内「花」   | [記載無し]         | ×                |
| 124 | 33-2 | [記載無し]                  | 中村流増補 雪の傾城     | [記載無し]         | ×                |
| 125 | 34-1 | 昭42年10月 歌舞伎座<br>連獅子 合狂言 | 連獅子合狂言         | 杵屋栄二/昭和43      | ×                |
| 126 | 34-2 | 矢の根 不出分ばっすい             | [不明]           | [不明]           | ×                |
| 127 | 35-1 | 初音の頼み(新平家物語)            | 新平家物語の内 初音の頼み  | 杵屋栄二           | ⑦-2-10           |
| 128 | 35-2 | 鶴ヶ岡悲曲                   | 鶴ヶ岡悲曲          | [記載無し]         | ⑦-2-10           |
| 129 | 35-3 | 馬追                      | 馬追             | 4杵屋六三郎/文政5     | ×                |
| 130 | 35-4 | 六翁 西王母                  | 西王母            | 4杵屋六三郎/文政5     | ×                |
| 131 | 35-5 | 四季の賑                    | 四季の賑           | 3杵屋栄蔵/明治42     | ④-54 ⑤-54        |

| 譜本番号 | 各曲末尾等の記載  | 備考                              |
|------|---|---------------------------------|
| 28-3 |   |                                 |
| 29-1 | 昭和41年7月、本年10[月カ]福井桃華会上演に付、佐登代佐之助両氏のレコードより採譜、佐枝女に訂補願ひしもの。  | 譜に小節線あり。<br>花柳三之輔からの歌詞訂正願の手紙あり。 |
| 29-2 |   | 曲名は原本表記のまま。<br>譜に小節線あり。         |
| 29-3 | 昭和41年7月121314日市川猿之助丈春秋会(東横ホール)に上演の忠臣講釈・揚屋の場の使用の独吟として作曲。歌詞付  | 譜に小節線あり。                        |
| 29-4 | 第一回 昭和十五年四月 雀成会 長唄・常磐津掛合。第二回 昭和十六年五月松竹舞踊大会長唄・常磐津・竹本掛合。第三回 昭和四十年四月 荅会(21日間)東横ホール 長唄・常磐津掛合。三味線の手は全部中村芝賀女より。       | 譜に小節線あり。                        |
| 29-5 | 昭和27年2月16日 3月28日 杵勝家元 杵屋いそ女より。<br>それ\の姿に咲くや仇さくら 寄三津再十二支 坂東三津五郎演。文化十一甲戌年(一八一四年)三月七日より。作者 瀬川如阜 振付 市山七十郎。          | 譜に小節線あり。                        |
| 29-6 |   | 譜に小節線あり。<br>出だし:寿の鶴と亀との         |
| 30-1 | 昭和十年三月 日本舞踊協会五周年記念 東劇。木村富子作詞 花柳徳太郎、坂東三津五郎、藤間勘翁 振。   | 譜に小節線あり。                        |
| 30-2 |   |                                 |
| 31-1 | 文政五年三月江戸市村座 三世市川門之助演。作詞二世瀬川如阜。  |                                 |
| 32-1 |   | 出だし:山より山の奥までも                   |
| 32-2 |   | 刊行「栄二譜」では《高尾懺悔の段》で掲載。           |
| 32-3 |   | 歌詞無し                            |
| 33-1 | 昭和43年6月 猿之助春秋会。雪=雪の傾城、月=玉兔、花=鞆当。此「鞆当」の曲は前半「花の色里」より「行く空の」迄は「寛活鞆当」の一部を流用。「今は昔」よりは藤間勘十郎氏より寄口されたるテープによるもの(此曲何なるか不明) | 刊記の口は「贈」か。                      |
| 33-2 |   | 冒頭のみ                            |
| 34-1 | S43.9.22成   |                                 |
| 34-2 |   |                                 |
| 35-1 |   |                                 |
| 35-2 | 本曲・後奏:32.10.16成、前奏:32.10.17成  | 前曲《初音の頼み》からの続き。                 |
| 35-3 | 七所御撰初鉄鑿(ナトコマガミハツカネ)の内 苗代の小田馬追 三世市川門之助演。江戸市村座 文政五年三月。作詞 二世瀬川如阜 作曲 四代目杵屋六三郎。                                      |                                 |
| 35-4 | 七所御撰初鉄鑿の内 桃の節句 西王母。主演・作詞・作曲・年代・座共「馬追」と全じ。   |                                 |
| 35-5 |   |                                 |



| 番号  | 譜本番号 | 譜本表紙曲名  | 譜本内題曲名                             | 作者/作曲年代(作詞者等)   | 刊行「栄二譜」の有無    |
|-----|------|---------|------------------------------------|---|---------------|
| 132 | 36-1 | 春信幻想曲   | [記載無し]                             | [記載無し]  | ×             |
| 133 | 36-2 | お七吉三    | お七吉三                               | [記載無し]  | ⑤-56          |
| 134 | 37-1 | きやり抜粋五曲 | 半田稲荷 根元草摺引 廓丹前 心猿の秋の月 伊勢土産 傾城の川崎音頭 | <small>[半田稲荷:1杵屋勝五郎/文化10 根元草摺引:3杵屋正治郎/明治16 廓丹前:2杵屋勝三郎/安政4 心猿の秋の月:4杵屋六三郎/文化10 伊勢土産:10杵屋六左衛門/安政3]</small> | ×             |
| 135 | 37-2 | 掛合 かげ清  | かけ合 かげ清                            | [記載無し]  | ×             |
| 136 | 37-3 | けん人形    | けん人形                               | [記載無し]  | ×             |
| 137 | 37-4 | 鳥羽絵     | 八重九重花姿絵 鳥羽絵                        | 10杵屋六左衛門/天保12   | ④-58 ⑦-9-9    |
| 138 | 38-1 | 新まつ風    | 新松風                                | 作曲年 作曲者未詳   | ×             |
| 139 | 38-2 | 奈須野     | [記載無し]                             | [記載無し]  | ×             |
| 140 | 38-3 | 水仙丹前    | 門出京人形 水仙丹前                         | [記載無し]  | ④-72          |
| 141 | 39-1 | 楊貴妃     | 楊貴妃                                | 杵屋栄二/昭和30(吉井勇作詞)  | ③-4-10 ⑦-4-10 |
| 142 | 39-2 | 軒すだれ    | [記載無し]                             | [記載無し]  | ③-6-1 ⑦-6-1   |
| 143 | 40-1 | 禿しら玉    | 禿 しら玉 (新禿)                         | 2杵屋正次郎/文化13   | ×             |
| 144 | 40-2 | (自)橋弁慶  | 橋弁慶                                | [記載無し]  | ⑦-12-8        |
| 145 | 40-3 | [記載無し]  | 業平                                 | [記載無し]  | ⑦-12-6        |
| 146 | 41-1 | 月下鶴     | 十代目六左衛門七回忌追善「月五首」の内 月下鶴            | 11杵屋六左衛門/元治1  | ④-74 ⑦-9-6    |
| 147 | 41-2 | 岩戸開     | 天岩戸開奏楽(宮比御神楽)                      | 稀音家照海/明治4   | ×             |
| 148 | 41-3 | 春の調(訂)  | 春の調                                | 2杵屋勝三郎/慶応1  | ①-11          |
| 149 | 42-1 | 競花槍     | [不明]                               | [不明]  | ×             |
| 150 | 42-2 | 月前の砧    | 月前の砧                               | 杵屋彦次郎(3杵屋正治郎)/嘉永7   | ④-73 ⑤-73     |
| 151 | 42-3 | 三曲松竹梅   | 三曲松竹梅                              | 杵屋照海/元治1  | ④-61          |
| 152 | 42-4 | [記載無し]  | 馬場先踊                               | [記載無し]  | ⑦-10-1        |
| 153 | 43-1 | やぐら三番   | 櫓三番叟                               | 杵屋勝左衛門/天保10   | ×             |

| 譜本番号 | 各曲末尾等の記載   | 備考  |
|------|--|---|
| 36-1 | 大正十三年秋 花柳舞踊研究会第二回帝国ホテル。笠森おせん(花柳徳次=后五條珠美)菊之丞に似た若衆(花柳三之輔)。此時の伴奏=高低三絃、箏、ヴァイオリン(共作曲声鳥居維子自演)篠笛。其後音楽だけを「新日本音楽」として用ひ、尺八、チェロ、低音箏を加へる。町田嘉章氏より。                | 譜に小節線あり。  |
| 36-2 |  | 3杵屋栄蔵の作品。                                       |
| 37-1 |  | 各曲一部分を抜粋して1曲につなげたものか。                           |
| 37-2 | 昭和44年7月23日 NHKライブラリ。三東勢、菊三郎他。五郎治、栄二他。田中社中。   | 出だし:呉道子が筆にあらねど常磐津との掛合。                          |
| 37-3 |  | 出だし:さかづきの数を重ねし拳人形                               |
| 37-4 |  |   |
| 38-1 |  | 出だし:あわれいこしへを                                    |
| 38-2 |  | 出だし:此所は下野賤機帯を通常、曲名は「那須野」と表記。                    |
| 38-3 | 45. 11. 14 綾子女により訂正(45. 11. 13)  |   |
| 39-1 |  |   |
| 39-2 |  | 出だし:軒すだれすけて切子の                                  |
| 40-1 | 文化十三年三月河原崎座。四代目岩井半四郎十七回忌追善。局岩藤比翼襦袢 第二ばんめ大切 江戸紫手向七字 五代目半四郎七変化所作。芸者八重梅(禿しら玉)   |   |
| 40-2 |  | 出だし:三塔一の荒法師 其名は四方にかくれなき自身の復曲の意味で「(自)」と記したのであろう。 |
| 40-3 |  | 出だし:九重の都の空を立て                                   |
| 41-1 | (小三八氏所蔵) 版本連名。大薩摩一宝斎 長唄 吉住小四郎 木村栄治郎 岡安勝蔵 三絃 杵屋六左衛門 藤間勘左衛門 杵屋三之助 上調子 杵屋喜三郎  |   |
| 41-2 | 大正12.12.20、藤間吟女より(吟女は自分の曾祖父の弟藤間勘左衛門の養女なり。)昭和18.8.22 浄観師により訂補。◎「神楽」のくだり=以前は合方1回唄2回なりしも現在は合方を省き四小節を合方代りに弾き直ぐ唄にかゝる。なほ、「宜し」の「くり返し」は無し。右浄観師の談。△自分は旧型にもどす。 | 新聞記事:43.9.20                                    |
| 41-3 | 昭46.7.25 故勝太郎師の手に訂正。   |   |
| 42-1 |  | 冒頭部分に白紙を貼付。歌詞は「元よりつやもよし町の」から判読可能。               |
| 42-2 |  |   |
| 42-3 |  |   |
| 42-4 |  | 出だし:松はゆたかに                                      |
| 43-1 |  |   |

| 番号  | 譜本番号 | 譜本表紙曲名                             | 譜本内題曲名                       | 作曲者/作曲年代(作詞者等)   | 刊行「栄二譜」の有無  |
|-----|------|------------------------------------|------------------------------|------------------|-------------|
| 154 | 43-2 | 四季の詠                               | 御注文色取隅田川 四季の詠                | 12杵屋六左衛門/明治5     | ⑤-86        |
| 155 | 45-1 | 師 羽衣                               | 合調 羽衣                        | 3杵屋栄蔵            | ×           |
| 156 | 46-1 | 昭和四十七年よし町紅会                        | [記載無し]                       | [記載無し]           | ×           |
| 157 | 47-1 | 百夜車                                | 少将道行 百夜車                     | [記載無し]           | ×           |
| 158 | 47-2 | くるわ三番                              | 廓三番叟                         | [記載無し]           | ×           |
| 159 | 47-3 | 文うり                                | 梅ヶ枝文売                        | 10杵屋六左衛門/弘化3     | ⑤-88 ⑦-14-4 |
| 160 | 48-1 | 新羽衣(自)                             | 新羽衣                          | 杵屋栄二             | ×           |
| 161 | 49-1 | 紫                                  | 紫                            | 3杵屋栄蔵/明治41(山岸荷葉) | ④-53 ⑦-11-6 |
| 162 | 49-2 | 土平                                 | 飴売土平                         | 3杵屋栄蔵/昭和10(山崎青雨) | ⑤-100       |
| 163 | 49-3 | 心猿                                 | 心猿の秋月                        | 4杵屋六三郎/文化10      | ×           |
| 164 | 49-4 | お祭(百扇会)(自)                         | 賑談売百扇会祭 お祭五景<br>第三景 手古舞の木やり唄 | 杵屋栄二/昭和30(南山寅作)  | ×           |
| 165 | 49-5 | 恋香炉(自)                             | 恋香炉                          | 杵屋栄二/昭和30(松本亀松)  | ×           |
| 166 | 50-1 | 春日竜神                               | 春日竜神                         | [記載無し]           | ⑦-9-4       |
| 167 | 50-2 | 雁の文                                | 雁の文                          | [記載無し]           | ×           |
| 168 | 50-3 | 紫丹前                                | 東花紫丹前                        | 杵屋栄二/昭和5         | ⑦-1-10      |
| 169 | 51-1 | 其九絵彩四季桜 傾城<br>(江口の君 石橋) (後半<br>二種) | 其九絵彩四季桜 江口の君 石<br>橋 傾城       | 1杵屋勝五郎/文化12      | ×           |
| 170 | 52-1 | 初音の頼み                              | 新平家物語 初音の頼み (静<br>の巻より)      | 杵屋栄二/昭和32(吉川英治)  | ⑦-2-10      |
| 171 | 52-2 | 鶴ヶ岡悲曲                              | 鶴ヶ岡                          | 杵屋栄二/昭和32(吉川英治)  | ⑦-2-10      |
| 172 | 52-3 | [記載無し]                             | 藤間勘十郎氏流「切禿土蜘蛛」<br>手順         | [記載無し]           | ×           |
| 173 | 52-4 | [記載無し]                             | 鬼治拍子舞(オキ)                    | 昭和32             | ⑤-96        |
| 174 | 52-5 | 雪女郎                                | 雪女郎                          | 4杵屋佐吉/大正13       | ×           |
| 175 | 52-6 | 土手の月                               | 土手の月                         | 4杵屋佐吉            | ×           |

| 譜本番号 | 各曲末尾等の記載  | 備考   |
|------|---|--|
| 43-2 |   |  |
| 45-1 |   |  |
| 46-1 |   | 出だし:花見どき空晴渡る青年に                                  |
| 47-1 | 哥浄瑠璃 富士田吉治 三絃 錦屋惣治 西川億蔵<br>明和二年秋 市村座 市村羽左衛門演  | 出だし:さればにや少将は                                     |
| 47-2 |   | 出だし:とうとうたたり たらりら たらりあがり たらりどう 千早振袖かむろまで          |
| 47-3 |   |  |
| 48-1 |   | 自身の作曲の意味で「(自)」と記したのであろう。                         |
| 49-1 | 三世杵屋栄蔵師の処女作(醬油に関する宣伝の歌なりという。)正本(和紙に活版刷)に明治四十三年三月=巻末に作詞者の言葉として「紫は玉屋にちなみて坂東の大河荒川をかけて大さつま風に作り出したるもの也とあり。作詞者 尾崎紅葉下紅葉 又小山雲潭門下雲石。 |  |
| 49-2 | 後に舞踊協会に補作。48年11月11日杵栄会大会=作曲当時の型に戻す。増補分カット(栄左衛門氏本により) 山崎青雨作詞   |  |
| 49-3 |   |  |
| 49-4 | 五週年を祝い寿ぐ屋台囃子<br>S30.6.24/26 #5百扇会 東宝劇場  | 自身の作曲の意味で「(自)」と記したのであろう。                         |
| 49-5 | 昭和30年9月、第3回華扇会 明治座  | 新聞記事:48-10-4、48-10-5<br>自身の作曲の意味で「(自)」と記したのであろう。 |
| 50-1 |   | 出だし:月の行衛もそなたぞと                                   |
| 50-2 |   | 出だし:清らなる秋時の亭に                                    |
| 50-3 |   |  |
| 51-1 | 「初め一景色かな 今藤氏の手/□印まで 富造氏の手/△印まで 自改作/花にたわむれー×印まで 富造氏の手(2.3変更)/アト段切まで 今藤氏の手」S44-10-7成。「此曲についてのいろ／＼」昭和四十四年十月十九日記(栄二)            |  |
| 52-1 |   | 「新平家物語」記事貼付(昭和32年10月16日毎日新聞夕刊)                   |
| 52-2 | 32-10-16成   | 「新平家物語」記事貼付(昭和32年10月16日毎日新聞夕刊)                   |
| 52-3 | 右全氏テープに依る。S32.10.19   | 演奏上の手順を記す。                                       |
| 52-4 | 昭和32年11月歌舞伎座。<br>レコードによる増補 46-7-1   | 昭和32年の上演の折のメモと、レコードから採譜をした昭和46年7月1日のメモと思われる。     |
| 52-5 |   |  |
| 52-6 |   |  |

| 番号  | 譜本番号 | 譜本表紙曲名        | 譜本内題曲名            | 作曲者/作曲年代(作詞者等)         | 刊行「栄二譜」の有無      |
|-----|------|---------------|-------------------|------------------------|-----------------|
| 176 | 52-7 | 花見船           | 花見舟               | 4杵屋佐吉                  | ×               |
| 177 | 52-8 | [記載無し]        | 栄蔵師作曲 雪女郎の抜すい     | 3杵屋栄蔵                  | ③-7-7           |
| 178 | 53-1 | 景清            | [記載無し]            | [記載無し]                 | ×               |
| 179 | 53-2 | お月さま          | お月さま              | 吉住小三郎/大正7              | ×               |
| 180 | 54-1 | 正邦作曲 鶯宿梅 増補共  | [記載無し]            | [記載無し]                 | ×               |
| 181 | 55-1 | 初音のたのみ        | 新平家物語の内 初音の頼み     | 杵屋栄二/昭和32              | ⑦-2-10          |
| 182 | 55-2 | 鶴ヶ岡悲曲         | 鶴ヶ岡悲曲             | [記載無し]                 | ⑦-2-10          |
| 183 | 55-3 | 美目より          | [記載無し]            | [記載無し]                 | ⑥-57            |
| 184 | 55-4 | (おしゅん)        | [記載無し]            | [記載無し]                 | ×               |
| 185 | 56-1 | 染分手綱 道成寺      | 恋女房染分手綱 道成寺       | 杵屋栄二補曲/昭和48(戸部銀作補綴・演出) | ×               |
| 186 | 56-2 | 小団次傾城         | 寄三升花四季画 小団次七変化 傾城 | 杵屋弥十郎/安政1              | ×               |
| 187 | 56-3 | 十二段 上下        | [記載無し]            | [記載無し]                 | 上:⑥-126 下:⑥-127 |
| 188 | 57-1 | 成駒屋 枕獅子ばっすい   | [記載無し]            | [記載無し]                 | ×               |
| 189 | 57-2 | 杵家新曲 四季の星     | 四季の星              | 杵屋栄二/昭和33              | ③-8-10          |
| 190 | 61-1 | 矢の根(舞台型)      | 矢の根(舞台型)          | [記載無し]                 | ×               |
| 191 | A-1  | おしどり(四十八手恋諸訳) | 四十八手恋諸訳(おしどり上)    | [記載無し]                 | ×               |
| 192 | A-2  | 滝流し上調子        | [記載無し]            | [記載無し]                 | (①-49)          |

| 譜本番号 | 各曲末尾等の記載  | 備考                                       |
|------|---|--|
| 52-7 |   |  |
| 52-8 | 花柳三之輔氏流=「雪女郎」の前に栄蔵師作曲の「雪女郎」初段「禿」の件りをつけて使用。此時のツナギに左の合方を使用(福井温習会)         | ツナギの合方を採譜                                |
| 53-1 |   | 出だし:呉道子が筆にあらねど                           |
| 53-2 |   |  |
| 54-1 | 次頁=花柳錦之輔氏流増補(現在是を使用)<br>以下は作曲当時のもの=啓之氏の考案になりしものにて其後全氏以外は前記錦之輔氏の方にかわる。   | →「げけそう文」に始まる部分。<br>→「東風吹かば匂ひおこせよ」に始まる部分。 |
| 55-1 |   |  |
| 55-2 |   | 前曲《初音の頼み》からの続き。                          |
| 55-3 |   | 出だし:姿の花の香に迷う                             |
| 55-4 |   | 出だし:捨がたき浮世の義理のしがらみに                      |
| 56-1 | 国立劇場 昭和48年3月興行 戸部銀作補綴・演出<br>通し狂言 恋女房染分手綱 五幕七場 三幕日返し 由良木家能舞台の場「道成寺」栄二補曲。 |  |
| 56-2 |   | 出だし:通う神かぜ文の首尾                            |
| 56-3 |   | 出だし:去程に武士の矢はぎの里に                         |
| 57-1 |   |  |
| 57-2 |   |  |
| 61-1 | 以上三世栄蔵師の弾かれたる手。立まわり合方は松緑丈の注文にて一部変更(昭和45年元旦)NHK TVにて。                    | 昭和42年10月13日記の考察あり。                       |
| A-1  | 成駒屋蒼会昭和29年2月作曲  | 第1回から第4回までの上演時のメモあり。                     |
| A-2  | S50-3-6   | 刊行「栄二譜」は《勸進帳》。                           |